

ふるさと再発見 第35回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝⑧

―八幡商人、画家になる―

茨木杉風

いばらき さんぷう

今回は、市立資料館で開催している『近江八幡の歴史』特別陳列「近江八幡ゆかりの画人たち」八幡商人が遺したアート」から、八幡商人から画家になった茨木杉風（1898年～1976年）を紹介します。

杉風は、博労町上の海産物問屋「梅田屋」茨木芳蔵の長男芳太郎として生まれました。家業を継ぐべく滋賀県立八幡商業学校（現八幡商業高等学校）を卒業しましたが、画の道をあきらめられませんでした。これまで紹介してきた塩川文麟などのように、大正期に入っても八幡商人と画人との交流は続いています。杉風は、魚屋町正福寺などに逗留して画会を開いていた日本画家・大林千萬樹と交

を奉納しています。

杉風は、中央画壇での栄進を求めず、故郷を愛し、在野に身を置いた画家でもありました。昭和49年（1974年）春、市立資料館の開館の際には、自身の作品を多数寄贈していますが、こうした行動も彼の在野精神のあらわれでしょう。

今回の特別陳列では、屏風絵「潮騒」など、杉風の写意を重んじた素朴かつ粘りのある画風の作品を展示しています。この機会にぜひご堪能ください。

また、『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」では、杉風の記事や近江八幡の風景を描いた諸作品を掲載しています。図録代わりにご購入いただければ幸いです。

『近江八幡の歴史』第9巻

「地域文化財」

市立資料館ほか市役所文化観光課、市史編纂室、旧伴家住宅、市内書店（川端書店、がんご堂アキア店、サンミュージック近江八幡店、めん嘉）で販売中。1冊3000円。



茨木杉風 「潮騒」

『近江八幡の歴史』第9巻

「地域文化財」刊行記念特別陳列

『近江八幡ゆかりの画人たち』展
市立資料館（新町二丁目）で
開催中。11月21日（日）まで。

人口と世帯

令和3年10月1日現在
()は前月比

総数	82,220人	(- 13)
男	40,410人	(- 8)
女	41,810人	(- 5)
世帯	34,751世帯	(+ 4)

※外国人住民(42か国・地域/1,605人)を含みます。

🚨 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。